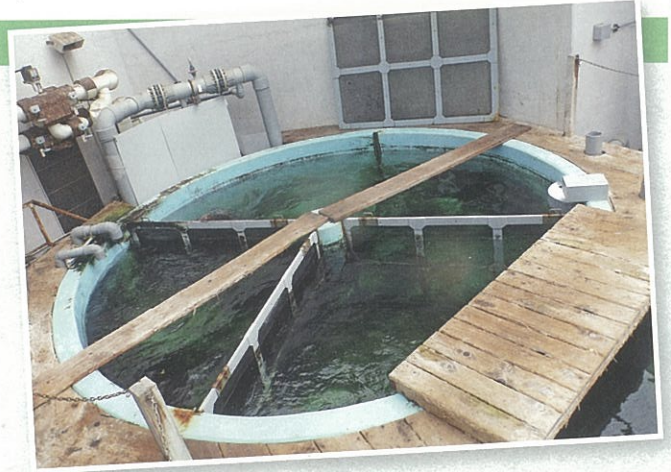




## アカウミガメのお見合い大作戦!

飼育展示第一課 安藤 友佑

名古屋港水族館は1995年に世界で初めて屋内の施設でのアカウミガメの繁殖に成功し、それ以降ほぼ毎年産卵があります。ほとんどの子ガメは放流していますが、一部は館内で育成しています。野生下では成熟するまでに20~30年ほどかかると言われていますが、飼育下ではそれよりも早いようで、1995年に生まれたオス(個体番号: Cc95-25)と1997年に生まれたメス(個体番号: Cc97-11)はすでに成熟していることが分かっています。このウミガメ同士を交尾させ、繁殖が成功すれば、野生と同じライフサイクルを飼育下で再現できたこととなり、飼育方法が適切であったことの証にもなります。しかし、現在のウミガメ類を多数飼育している水槽の環境下では、特定のペアを交尾させることは困難です。また血縁関係のあるウミガメ同士が交尾してしまう可能性もあるため、計画的に繁殖させる必要があります。そこで、新たな方法として、水族館に隣接する“カメ類繁殖研究施設”でペアを選択し、交尾させようと試みました。具体的には水槽の1区画にオスを入れ、隣接する区画にメスを入れ、時期を見計らって、区画を分けている仕切り板を外す。それはまさに“お見合い”のようです。まず、2015年に相性がよく、過去に何度も繁殖に成功しているペアで行いました。交尾は成功し、子ガメが誕生しました。この“お見合い”は特定のペアを繁殖させる非常に有効な手法であることがわかり、2016年には名古屋港水族館生まれのウミガメ同士



“カメ類繁殖研究施設”の水槽。4つの区画に分けることができます。この仕切り板を上げて、お見合いをさせます。

お互いじっと見つめあい、様子をうかがっています。(右:メス Cc97-11 左:オス Cc95-25)



でお見合いをさせてみました。これまでに何度か“お見合い”を試みていますが、相性が良くないのか、未だ交尾に至っていません。もし、この2頭のお見合いが成功すれば、自然のウミガメを捕えることなく、国内外の水族館での展示個体の確保や、絶滅危惧種であるアカウミガメの保全増殖事業などにも貢献できるかもしれません。いつの日か名古屋港水族館生まれのアカウミガメの赤ちゃんが誕生することを期待しています。

### ■アカウミガメの産卵・ふ化実績

年	産卵個体数	産卵回数	産卵数	ふ化数	ふ化率(%)
1995年	3	7	596	378	63.4
1996年	4	15	1382	925	66.9
1997年	4	13	1059	246	23.2
1998年	3	8	760	341	44.9
1999年	3	11	1026	736	71.7
2000年	4	14	1265	888	70.2
2001年	4	16	1498	1201	80.2
2002年	3	14	1217	1016	83.5
2003年	2	5	413	275	66.6
2004年	3	8	551	154	27.9
2005年	3	15	1330	624	46.9
2006年	2	5	395	263	66.6
2007年	3	11	900	455	50.6
2008年	2	7	504	364	72.2
2009年	2	7	656	375	57.2
2010年	1	5	431	204	47.3
2011年	0	0	0	0	0.0
2012年	2	6	495	305	61.6
2013年	1	1	46	37	80.4
2014年	1	1	84	61	72.6
2015年	1	3	277	160	57.8
2016年					
合計	51	172	14885	9008	60.5

※ふ化・砂上に這い出した時点でカウントし、砂中及び這い出し後の死亡は含まない。

## わたしのスケッチブック

学習交流課 吉井 誠

### 【マダイ】

瀬戸内の漁師町で育った私が釣り道具(自分専用の竿とリール)を買ってもらったのは小学生低学年の頃。それを使った初めての日に手のひらサイズのマダイが釣れました。その日の晩ごはん、私の前にだけ尾頭付のマダイが出てきました。おやじ曰く、『これはお前のじゃ。釣ったやつが食べれるんじゃ』。少年がその日以来魚釣りに没頭したのは言うまでもありません。



そして少年は そのまま水族館飼育係へ。一巻 喜んだのは おやじも知りません。